

妊娠中の母子感染に注意！！

妊娠中にウイルスや細菌、寄生虫などに母体が感染すると、胎盤や血液を通じて母親から胎児に感染してしまい、赤ちゃんが何らかの障がいをもって生まれて

くることがあります。
これを胎内感染(または先天感染)といいます。
妊娠中、感染しないように予防することがとても大切です。

妊娠中の感染予防のための注意事項 11か条

1. 石けんと流水で、しっかり手を洗ってください。
2. 小さな子どもとのフォークやコップの共有、食べ残しを食べることはやめましょう。
3. 肉は、しっかりと中心部まで加熱してください。
4. 殺菌されていないミルクや、それらから作られた乳製品は避けましょう。
5. 汚れた猫のトイレに触れたり、掃除をするのはやめましょう。
6. げっ歯類(ネズミの仲間たち)やそれらの排泄物に触れないようにしましょう。
7. 妊娠中の性行為の際には、コンドームを使いましょう。
8. 母子感染症の原因となる感染症について検査しましょう。
9. B群溶血性レンサ球菌の保菌者であるか検査しましょう。
10. ワクチンが存在する感染症(たとえば、麻疹、風疹や水痘)から自分と胎児の身を守るために、妊娠前にワクチンを打ちましょう。
11. 自分が十分な抗体を持っていない場合、水痘や風疹などに感染している人には近づかないようにしましょう。

特に
注意

先天性トキソプラズマ感染症・先天性サイトメガロウイルス感染症

妊娠中に「トキソプラズマ」や「サイトメガロウイルス」に初めて感染し、障がいをもって生まれてくる赤ちゃんが増えています。ワクチンが存在しないため、感染予防が重要です。

トキソプラズマの感染予防

- ・生ハム、ローストビーフなど、生肉や加熱不十分な肉を食べない
- ・土いじりを避ける
- ・生水や井戸水は避ける
- ・猫の糞に触らない
- ・新しく猫を飼わない

サイトメガロウイルスの感染予防

- ・子どもと箸やスプーンを共有しない
- ・子どもの唾液や尿に注意し、しっかりと石鹸で手を洗う
- ・性行為の際にはコンドームを使用する

サイトメガロウイルスの重要な感染経路は、子どもの尿や唾液からの接触感染です